

安全な下水道を維持するために ～「町田市下水道事業経営戦略 26-35」を策定しました～

本号では経営戦略に
基づく主な取り組み
を紹介するケロ！



下水道を取り巻く環境

経営戦略の
詳細はこちら



下水道管の老朽化に起因した
市内道路陥没現場

下水道は、汚れた水をきれいにし大雨から街を守る重要な役割を担っています。下水道施設や管路の老朽化が進行すると、道路陥没や浸水被害、設備の故障などが発生する恐れがあるため、計画的な点検や修理などの維持管理が欠かせません。

さらに、最近の激しい雨や地震にも備えて、安全な街を守り続けるためには、安定した財源を確保することが大切です。

下水道使用料 使用料

トイレや台所、お風呂などから出た汚れた水(汚水)をきれいにする

水を使用した人が支払います

きれいにして、川や海にもどす

税金 税金

雨が降ったときに流れる水(雨水)を安全に流す

社会全体で負担します

安全に川や海へ流す(まちの水びたしにしない)

下水道維持管理時代の各対策の紹介

今後も安心・安全に下水道を使っていくために…

問い合わせ 下水道整備課 ☎042-724-4297
下水道管理課 ☎042-724-4328
水再生センター ☎042-720-1825

老朽化対策 事故や故障を未然に防ぐ

使用料 税金

下水道通信No.11
老朽化対策(工法等)については
こちら



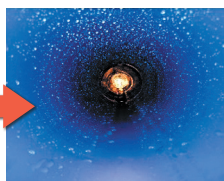
管路

点検・調査結果をもとに、汚水管・雨水管それぞれの劣化状況を踏まえ、計画的に布設替え工法や更生工法による改築更新工事を実施します。

2035年度までに汚水管約15km、雨水管約13kmの改築更新工事を予定しています。



工事前

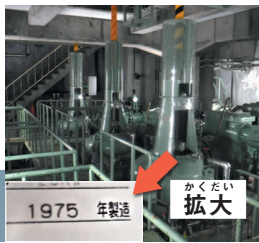


更生工事後

処理場

町田市には2カ所の下水処理場〔成瀬クリーンセンター(以下成瀬CC)、鶴見川クリーンセンター(以下鶴見川CC)〕と1カ所のポンプ場〔鶴川ポンプ場(以下鶴川P)〕があり、24時間休むことなく汚水を処理しています。

下水処理場には約3000点以上のさまざまな設備があります。中には製造から半世紀(50年)以上も経っている設備もあります。老朽化の進んだ汚泥濃縮設備の更新工事を行うなど、日々の汚水処理を継続しながら、計画的かつ効率的に修繕・改築更新を進めます。



1975年製造の
汚水ポンプ設備

1975
年製造
拡大

地震対策(耐震化) 災害時も下水処理機能を止めない

使用料 税金

管路

液状化の発生が予測される地域に布設された汚水及び雨水マンホールの耐震化工事は2029年度までに完了する予定です。

下水道通信No.5
地震対策については
こちら



処理場

地震による下水処理機能の停止を防ぐため、施設の耐震化工事を進めており2037年度に完了する見込みです。また、非常用発電設備を更新して地震等による停電時に備えるなど、計画的な工事の実施により地震災害への対応力を強化します。



非常用発電設備

浸水対策 集中豪雨から街を守る

税金

下水道通信No.8
浸水対策についてはこちら



雨水調整池

大雨の際に急増した雨水を一時的に貯留し、川への流出量を調節する「調整池」を市内に125カ所設置しています。



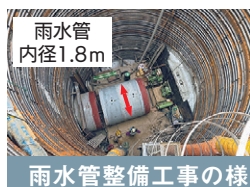
点検前



点検後

雨水管整備

浸水履歴などを基に、雨水管整備工事による浸水対策を実施しています。2035年度までに5カ所の工事を完了する予定です。



雨水管
内径1.8m



雨水管整備工事の様子

各対策等に必要なお金 (維持管理等の費用を除く)

2021～2025年度合計	169億円
2026～2030年度合計	227億円

安全を守るには
お金がかかるけれど、
バッチリ対策
しないとね！



次の5年間で
約34%も
増加する
見込みです。

経営健全化の取組

使用料 税金

下水道管や下水処理場の老朽化対策や地震対策などにかかる費用の増加に加え、下水道の維持管理にかかる費用も、物価や人件費の値上がりによって増えています。そのため、維持管理を効率化するとともに、新技術を導入するなど、経営健全化に努めています。

問い合わせ

下水道経営総務課
☎042-724-4295

下水道管理課
☎042-724-4328

水再生センター
☎042-720-1825



どうやって費用を節約しているのかな？

維持管理の効率化

管路

「腐食しやすい環境にある」「災害時に輸送路となる道路に埋設されている」などの項目から個別に点検する管の優先順位を定めることで、効率的に維持管理を行っています。

また点検結果を詳細に評価・分析し、管路の劣化・損傷範囲に応じた部分補修を適宜実施することで、高コストな管の入替工事や更生工事が最小限となるよう取り組んでいます。

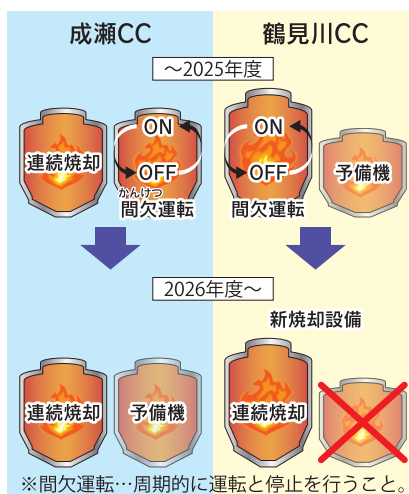


は 破損

処理場

成瀬CCと鶴見川CCでは、計4基の焼却炉で下水汚泥を処理してきましたが、今後は鶴見川CCの1基を廃止し、計3基体制へと移行します。これは、周期的に運転と停止を繰り返す「間欠運転」を見直し、施設間で汚泥を運搬して処理量を調整することで、24時間稼働させる「連続焼却」へと切り替えるものです。

焼却炉を1基廃止することで、年間の修繕費を約1億円、将来の建て替え費用を約60億円削減します。また、間欠運転する焼却炉の削減は、機械をこまめに止めたり動かしたりすることで生じる設備の劣化を防ぐことにも繋がります。



新技術の導入

管路

これまで、下水道管内の水位が高い場所や流れが速い場所における点検は、水位低下を待ち、コストの高い夜間に作業していました。そこで、新たに「フロートカメラ」を導入し日中に作業することで、コストを削減しています。



カメラがうつした下水道管内の様子



フロートカメラ

処理場

鶴見川CCで建設中の新しい焼却炉が、2026年度中に完成します。

これまで利用していなかった排ガスの熱と圧力を活用する「過給式流動燃焼システム」を導入することで、従来の焼却炉に比べ、消費電力と温室効果ガス排出量をそれぞれ約40%削減します

成瀬CCでは、水処理施設の運転制御に情報通信技術 (ICT) と人工知能 (AI) を2020年度より活用し消費電力を削減しています。

収入確保の取組 ～資産の有効活用～

下水道事業の安定的かつ持続的な経営を支えるため、下水道用地の地上部分や施設の空きスペースを有償で貸し出し、得られた収益を維持管理費の財源に充当しています。

- 鶴見川CCの敷地の一部をスポーツ施設として有償で貸付 ……年間約470万円の収入
- 下水道用地への看板や自動販売機の設置を許可し土地の使用料等を収入 ……年間48万円の収入

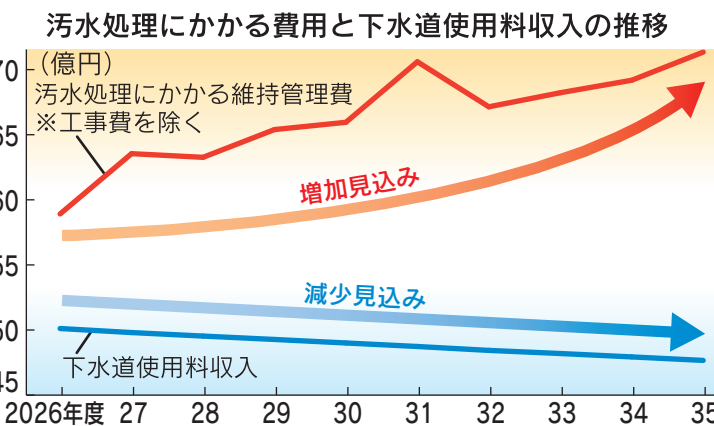
下水道を守るためのお金をムダなく使えるように、収入確保の取組など、色々と工夫しているケロ！



汚水の処理にかかる費用は、下水道を使った人が払う「下水道使用料」で負担する必要がありますが、今の下水道使用料の収入は、汚水の処理にかかっている費用に対して足りていません。



今の下水道使用料の収入は経営健全化の取組をしてもなお足りていないんだね…



お金がたくさんかかるけど、大丈夫なのかな？

将来にわたって下水道を使っていくためには、下水道使用料を見直す必要があるケロ！



お知らせ

～下水道をいつでも安心して使えるようにするために～

2027年1月から下水道使用料を改定します

日々の維持管理や施設の改築・更新にかかる費用の財源を確保するため、2027年1月から下水道使用料を改定します。詳細は、市ホームページ(右記二次元コード)をご覧ください。改定後の使用料などは、11月に各世帯や事業所に配布するリーフレットでもお知らせいたします。



問い合わせ

下水道経営総務課
☎042-724-4295

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

まちだ下水道通信は、環境に配慮した紙やインクを使用しています。